

## 名古屋市守山区で発見されたタイリクシジミ

川瀬 基弘

愛知みずほ大学人間科学部 〒467-0867 愛知県名古屋市瑞穂区春敲町2-13

*Corbicula fluminalis* (Muller, 1774) discovered in Moriyama-ku, Nagoya, Aichi Prefecture, Japan

Motohiro KAWASE

Department of Human Science, Aichi Mizuho College, 2-13 Shunko-cho, Mizuho-ku, Nagoya 467-0867, Japan

Correspondence:

Motohiro KAWASE E-mail:kawase@mizuho-c.ac.jp

## はじめに

2012年10月24日に名古屋市守山区の竜巻池で発見された外来シジミが(川瀬・市原, 2013), 中国に生息するタイリクシジミ *Corbicula fluminalis* (Muller, 1774) に同定されたので報告する(図1-1). また, 国内に生息するヤマトシジミ属(シジミ属) *Corbicula* の代表的な種についても解説する.

## 日本に生息するヤマトシジミ属

日本に生息するヤマトシジミ属 *Corbicula* は, これまでにマシジミ *Corbicula leana* Prime, 1864 (図1-3), ヤマトシジミ *Corbicula japonica* Prime, 1864 (図1-5), セタシジミ *Corbicula sandai* Reinhardt, 1878 (図1-2), タイワンシジミ *Corbicula fluminea* (Muller, 1774) (図1-4) の4種が報告されている.

マシジミ(図1-3)は淡水性で青森県から九州まで日本全国の河川上流域の砂礫底に生息し, 別名や方言でナリヒラシジミ, オクラシジミ, アワシジミと呼ばれることがある(肥後・後藤, 1993). マシジミは, 全国で絶滅危惧Ⅱ類に選定されており(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2014), 愛知県で絶滅危惧Ⅱ類に選定されるなど(愛知県環境調査センター, 2009), 全国的に激減している. さらに, レッドデータブックなごや2015(名古屋市, レッドデータブックなごや2015動物編(後半), <http://www.city.nagoya.jp/kankyo/cmsfiles/contents/0000069/69018/rdbn2015a-p2.pdf>, 2015年8月6日確認)では絶滅危惧ⅠA類に選定された. タイワンシジミは日本産マシジミと非常によく似ており形態変異も大きく識別困難な場合がある. ここでは, マシジミの方が殻表面が黒や黒褐色の濃色であること, 肋間がやや不

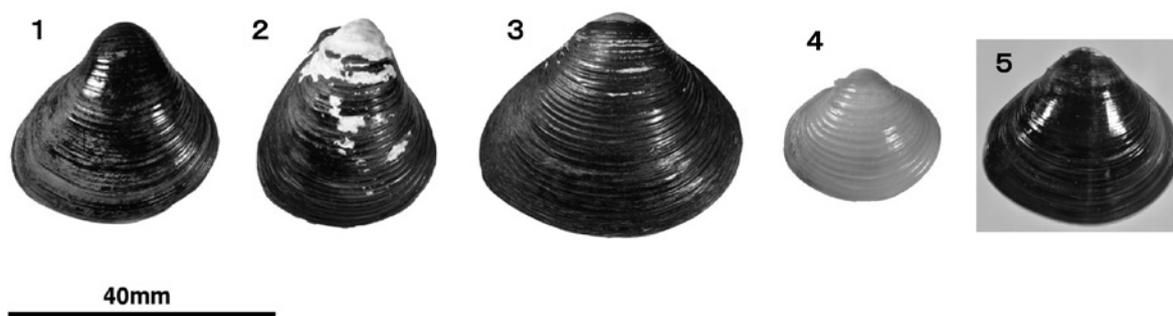


図1. 日本に生息するヤマトシジミ属各種. 1: タイリクシジミ *Corbicula fluminalis* (Muller, 1774), 2: セタシジミ *Corbicula sandai* Reinhardt, 1878, 3: マシジミ *Corbicula leana* Prime, 1864, 4: タイワンシジミ *Corbicula fluminea* (Muller, 1774), 5: ヤマトシジミ *Corbicula japonica* Prime, 1864

規則に配列すること、殻頂付近の表面が赤みを帯びないことに基づいて両種を識別した。ただし、マシジミはタイワンシジミのシノニムとされたり (Morton, 1986; 山田ほか, 2010; 酒井ほか, 2014), 文献により異なる見解が示されている。さらに最近の研究ではマシジミは近世期の外来種である可能性が高いとされている (黒住, 2014)。

ヤマトシジミ (図1-5) は北海道から九州まで日本全国の汽水域の砂泥底に生息し、ニホンシジミ、チクゴシジミ、サドシジミ、ヒメニホンシジミなどの地方名・別名がつけられている (肥後・後藤, 1993)。今日、スーパーなどの生鮮食品売り場で販売されている国産シジミのほとんどは本種である。鳥根県の宍道湖はヤマトシジミの一大産地である。マシジミやタイワンシジミとは生息域が異なるため生息地によっても区別できるが、ヤマトシジミは殻表の光沢が非常に強く成長脈が細かく密な点でもそれらと区別可能である。

セタシジミ (図1-2) は淡水性種でムラサキシジミとも呼ばれ、琵琶湖水系の固有種 (特産種である)。本種はマシジミやタイワンシジミに比べて、外形がより縦長であることから容易に区別できる。

タイワンシジミ (図1-4) は中国・朝鮮半島などから侵入した外来種であり、日本各地に分布を広げ、在来種との交雑や競争的置換が懸念されている (日本生態学会編, 2002)。幼貝では殻表が淡黄色で殻頂付近が桃色を帯びることからマシジミと識別できることもあるが、成貝では識別困難な個体も多い。本種もマシジミも雄性発生するが、マシジミが精子量の多いタイワンシジミに遺伝的に置換されてゆくことが知られている (増田・内山, 2004)。ただし前述のとおりマシジミを本種のシノニムとする見解がある (Morton, 1986; 山田ほか, 2010; 酒井ほか, 2014)。

### 守山区のタイリクシジミについて

2012年10月24日に名古屋市守山区の竜巻池で発見された外来シジミは、報告当初に種同定に至らなかったため、単に“外来シジミ”として報告された (川瀬・市原, 2013)。ネット上では本種と似たようなシジミを“バチ型シジミ”と表記してあったり、学名まで当ててあることがある。本種は国内のスーパーなどで食用種として販売

されており、早瀬 (2004) により報告された種も同種と考えられる。その後、He and Zhuang (2013) を調べたところ竜巻池で発見された本種がタイリクシジミ *Corbicula fluminalis* (Muller, 1774) に同定された。

竜巻池への移入経路は明らかでないが、最近、名古屋市内のスーパーなどで中国産やロシア産のシジミが出回っていることから、このような食用種の流通が原因ではないかと考えられる。現時点での生息個体数は少なかったが、比較的新鮮な個体 (軟体部の残った死殻) が確認されたことから名古屋市内での今後の分布拡大が懸念される。

### 引用文献

- 愛知県環境調査センター. 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2009—動物編—. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋市. 651pp.
- 早瀬善正. 2004. スーパーマーケットで購入したシジミ属の不明種. かきつばた, (29): 10-11.
- He, J. and Z. Zhuang. 2013. The freshwater bivalves of China. ConchBooks, Germany. 198pp.
- 肥後俊一・後藤芳央. 1993. 日本及び周辺地域産軟体動物総目録. エル貝類出版局, 八尾市. 693pp.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室. 2014. レッドデータブック2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—6 貝類. 株式会社ぎょうせい, 東京. 455pp.
- 川瀬基弘・市原 俊. 2013. 名古屋市守山区で発見された外来シジミ. かきつばた, (38): 63.
- 黒住耐二. 2014. 淡水二枚貝マシジミは近世期の外来種か—遺跡出土貝類からの証明. 高梨学術奨励金年報 (平成25年度研究成果概要報告): 67-73.
- 増田修・内山りゅう. 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ, 東京, 240pp.
- Morton, B. 1986. *Corbicula* in Asia - an updated synthesis. American malacological Bulletin, special edition, (2): 113-124.
- 日本生態学会編. 2002. 外来種ハンドブック. 地人書館, 東京. 390pp.
- 酒井治己・高橋俊雄・古丸 明. 2014. 日本産マシジミおよび外来タイワンシジミ類のアロザイム変異と淡水シジミ類の多様性. Venus, 72(1-4): 109-121.

川瀬 (2016) 名古屋市守山区で発見されたタイリクシジミ

山田充哉・石橋 亮・河村功一・古丸 明. 2010. ミトコンド  
リアDNAのチトクロームb塩基配列および形態から見

た日本に分布するマシジミ, タイワンシジミの類縁関  
係. 日本水産学会誌, 76(5): 926-932.

